

ASBJ/FASF 設立 10 周年

2011 年 7 月 26 日、公益財団法人財務会計基準機構（FASF）と企業会計基準委員会（ASBJ）は設立 10 周年を迎えました。これもひとえに会員の皆様、設立支援団体、その他関係機関のご支援ご厚情の賜物と心よりお礼申し上げます。

本特集では、FASF を代表し、萩原理事長より皆様へお礼の言葉を述べるとともに、10 周年にあたり、ASBJ の西川委員長、加藤副委員長、新井副委員長より ASBJ の現在までの成果と今後の展望についてご説明いたします。さらに関係者の皆様より設立 10 周年を迎えた ASBJ/FASF の今後の活動に期待するお言葉をいただきましたので、紹介いたします。

また、ASBJ/FASF の 10 年間の活動を表にした ASBJ/FASF の軌跡（略年表）及び ASBJ でこの 10 年間に開発した公表基準等一覧も掲載いたしますのでご高覧ください。

私どもでは、今後も皆様のご期待に添えますよう、引き続き努力して参りますので、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

1. 設立 10 周年を迎えて				7
	FASF 理事長	はぎわら 萩原	としたか 敏孝	
2. ASBJ の活動の成果と今後の展望				9
ASBJ の 10 年～これまでとこれから～	ASBJ 委員長	にしかわ 西川	いくお 郁生	
ASBJ としての国際対応の今後の展望と戦略について	ASBJ 副委員長	かとう 加藤	あつし 厚	
中長期視点からの会計人材の育成に向けて	ASBJ 副委員長	あらい 新井	たけひろ 武広	
3. これからの ASBJ の活動に期待する				22
ASBJ/FASF の印象深い出来事	専修大学商学部 教授	あんどう 安藤	ひでよし 英義	
産業界からの期待	(社)日本経済団体連合会 企業会計委員長	ひろせ 廣瀬	ひろし 博	
関西産業界からの期待	公益社団法人 関西経済連合会 理事	ふじわら 藤原	ゆきのり 幸則	
監査人からの期待	日本公認会計士協会 会長	やまざき 山崎	しょうそう 彰三	
ASBJ/FASF の設立 10 周年に寄せて	(株)東京証券取引所グループ 取締役 兼 代表執行役専務	いわくま 岩熊	ひろゆき 博之	
企業価値の評価に役立つ財務状況の開示に向けて	公益社団法人 日本証券アナリスト協会 会長	いな の 稲野	かずとし 和利	
ASBJ/FASF 設立 10 周年に寄せて	金融庁 総務企画局長	もりもと 森本	まなぶ 学	
4. ASBJ/FASF の軌跡（略年表）				40
5. ASBJ でこの 10 年間に開発した公表基準等一覧				66

設立 10 周年を迎えて

FASF 理事長 **はぎわら としたか**
萩原 敏孝



1 はじめに

当財団（FASF）と企業会計基準委員会（ASBJ）は、この7月で設立10周年を迎えました。日本の会計制度における重責を担いながら10周年を迎えることができたのは、ひとえにFASF及びASBJを支えてきていただいた関係者の方々のご協力のおかげであり、厚く御礼申し上げたいと思います。

現在、我が国の会計制度は大きな転換点を迎えようとしています。今後、FASF及びASBJの役割は、さらに大きなものとなっていくと考えられ、市場関係者の期待に応えるべく活動していく所存であります。

本稿では、これまでの10年を振り返るとともに、今後のFASF及びASBJのあり方について記載します。

2 これまでの10年

(1) ASBJの活動

ASBJが2001年7月に設立されるまで、我が国の会計基準の設定は、金融庁の企業会計審議会で行われていました。会計基準は資本市場の重要なインフラであります。ASBJが基準

設定の役割を引き継ぐこととなったわけです。この10年間、ASBJは斎藤前委員長と西川現委員長のリーダーシップのもと活動を続けてきましたが、最も重視してきたことは、市場関係者の意見の適切な集約であったと思われます。FASFの運営費用は、大半、市場関係者の方々からの会費収入により賄っています。したがって、それらの会員の方々の付託に答えるべく、ASBJには、市場の関係者の方々の意見を十分聞き、適切に意見集約することが求められ、市場関係者から信任を受けることに最も腐心してきました。

この10年でASBJが取り組んできた課題の中でも最も重要であったのは、会計基準のコンバージェンスであったと思われます。我が国の会計基準は、1990年代に金融庁により行われた会計ビッグバンにより一気に国際化しましたが、ASBJはそれを引き継ぎ、2005年に国際会計基準審議会（IASB）との間でコンバージェンス・プロジェクトを立ち上げ、2007年には東京合意を公表し、国際的な会計基準の改善に寄与するとともに、我が国会計基準の国際化を推進して参りました。その結果、2008年には、EUにより我が国の会計基準は国際財務報告基準（IFRS）と同等であるとの評価を得ることにつながっています。

また、国際的な会計基準の設定に関して、最

近では、アジア・オセアニア会計基準設定主体グループ（AOSSG）を中心メンバーとして立ち上げるとともに、現在は ASBJ が議長国となり、我が国がアジア・オセアニア地域における IFRS に関する主体的な役割を果たすべく活動を行っております。

(2) FASF の活動

FASF は、我が国における企業財務に関する諸制度の健全な発展と資本市場の健全性の確保に寄与することを目的とし設立され、この 10 年間、さまざまな活動を行ってきました。

最近では、IFRS の我が国への円滑な適用に関する活動を多く行っております。ご案内のとおり金融庁は 2010 年 3 月期より一定の要件を満たした企業に IFRS の任意適用を認め、現在、強制適用の適否を検討しています。IFRS の導入にあたっては、会計基準の他に、翻訳、教育、研修など、さまざまな解決を図っていく必要があり、FASF は、2009 年 7 月に、日本経団連、日本公認会計士協会、東京証券取引所等の市場関係者とともに、IFRS 対応会議を発足させました。

本年 2 月には、国際財務報告基準財団（IFRS 財団）は、ロンドンの本部の他に、アジア・オセアニア地域のサテライトオフィスを東京に設置することを決定しましたが、FASF は、国内外の主要な関係者への働きかけを行うなど、積極的に誘致活動を行いました。

また、国内の開示制度の関連では、引き続き、有価証券報告書及び四半期報告書の作成要領を取りまとめるとともに、それらを周知するために、全国でセミナーを開催しております。

3 今後のFASF及びASBJのあり方

我が国経済が置かれている状況は大変厳しいものがありますが、その中で、資本市場のイン

フラである我が国の会計制度は、現在、大きな転換点を迎えようとしています。金融庁は、現在、IFRS の適用について議論を続けていますが、その取組みは、国際的にも国内的にも大きな影響を与えるものと考えられ、我が国の国際競争力を高めていくためにも、市場関係者が力を合わせ協力し、取り組んでいかななくてはならない課題であると思います。

そのような中、日本の会計制度の一翼を担う FASF 及び ASBJ の責任はさらに重いものとなっていくと考えています。具体的には、FASF 及び ASBJ は、会計基準を専門的に扱う団体として、国際的な動向を十分に把握し、それらの情報を的確に分析し、我が国会計の戦略を立案することが必要と考えています。また、ASBJ は我が国の IFRS に対する意見を取りまとめるとともに、IASB との関係を強化し、十分な議論を行うことが求められていると考えます。今後とも、我が国の会計が国際的に信任されるべく、一層の努力が必要と考えています。

また、現在、会計人材の育成も FASF 及び ASBJ の大きな課題であると認識しています。我が国は、これまで IFRS 財団や IASB に対して、評議員や理事等の多数の人材を送り込み、我が国のそれらの分野における地位を高めてきました。今後も、このような場で活躍できる人材を中長期的な視点で開発していくことが急務であると考えています。

最後になりましたが、FASF の設立にご協力いただきました日本経団連、日本公認会計士協会、全国証券取引所協議会、日本証券業協会、全国銀行協会、生命保険協会、日本損害保険協会、日本商工会議所及び日本証券アナリスト協会をはじめとする市場関係者各位におかれましては、この 10 年間のご支援に対して大変感謝しております。今後とも、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。